

● スキャニングの指導法 True/False 形式問題の場合

① 問題文の内容語をハイライトさせる。

Professor Kachru called the current use of English “unprecedented.” 答 T / F

② 授業でハイライトした内容語を見ながら、音声を聞かせて解答させる。

② 自宅でハイライトした内容語を見ながら、音声を聞いて解答してくる課題を出す。また、音声を聞いて dictation をしてくる課題も出す。聞く回数は5回まで。

⇒ 反転授業の勧め

③ 解答

④ 解説

- 解説を聞く学習者と、解説を必要としない学習者にわけて後者には自習をさせる。
- 間違った学習者に音声の dictation をさせる。
- オーディオ・スクリプトを配布または Over Head Camera (書画カメラ)で提示する。

オーディオ・スクリプト-----

All right, today's topic is English as a “global language.” Now, linguists use the term “global language” to refer to the use of English worldwide for global communication. I know some of you, your first languages are Spanish or Chinese, but English is our common language here in the classroom; what's known as *the lingua franca*. It's the common language throughout the world right now as well, isn't it?

Professor Braj B. Kachru, an authority on the use of English, called the current global use of English “unprecedented.”

Kisslinger (2017)

- 正答に必要な語である Professor Kachru¹ use English called current unprecedented が、聞き取れていたかどうかを尋ねる。

⇒ 聞き取れていなかった場合

Checkpoints

- 全ての語が、目で見たら意味や品詞がわかる単語であるのか？

→わかる(音素の識別段階でのつまづき)

原因：文字情報処理能力と音声情報処理能力の乖離

対処法：聞き取ることができなかった内容語をハイライトさせる。

次に、ハイライトした内容語を見ながら音声を聞かせる。

最後に、何も見ないで音声だけを聞かせる。

→目で見てもわからない単語があった。

原因：リスニング能力の問題ではなく、語彙力不足

対処法：品詞と意味を調べさせる。

⇒ 聞き取れていた場合(文法的区切れ、または話者の意図理解段階でのつまづき)

原因：背景的知識や推測力、論理的思考、文法的知識などが十分でない。

対処法：正答に必要な背景的知識や推測力、論理的思考、文法などを指導する。

¹ 固有名詞であるため、学習者のリスニング能力に応じて予めスペルを教える。